

日本山岳会熊野古道集中登山の接待とサポート

◇実施日

5月15日(水) 北海道支部3名を持経宿へ送る (沖崎)

5月16日(木) 多摩支部2名を持経宿へ送る (湯川)

5月17日(金) 岐阜支部12名を本宮から玉置神社駐車場へ送る (沖崎)

京都支部関本さんを行仙宿で待つ (梶野)

5月18日(土) 山在峠で接待、大斎原で全員と合流 (9名)

◇参加者(5月18日) 沖崎吉信、梶野照雄、大江徳子、畑林

秀味・清子、濱野兼吉、阪口雄二、青木

宏充、坂田洋子

日本山岳会が全国の会員(4,300人)に送った「日本山岳会120周年記念事業、全国山岳古道調査」の熊野古道集中登山行の案内に「山岳古道調査の一環として、熊野古道で日本山岳会会員の集中山行を行います。集中山行とは集まる場所を決めておき、各自が各自の計画及びコースで、決まった場所に集合するものです。当会では120周年記念行事の一つとして山岳古道調査、【日本山岳会が選ぶ山岳古道120選】を実施しています。その中に熊野古道および大峯奥駈道も選定されています。しかしこれらの古道は既に世界文化遺産に選ばれ、専門家による調査も行われています。そのため山岳古道調査プロジェクトチームでは、通常のような調査は

行わず山岳古道の魅力を全国の会員の皆様に知って頂くために集中山行を計画しました。ぜひ聖地熊野にお集まりください。」とある。

全国に数ある古道の中から、この地を選んでいたのも、一昨年の秩父宮記念山岳賞を授与されたご縁あるものと思っている。全国の会員の皆様に対し、聖地熊野へお集まりくださいとの呼びかけにも答えたく、出来るだけの接待・サポートの必要を感じた。



山在峠で

吹越峰

集中山行は奥駈道以外に小辺路、中辺路、大雲取・小雲取越えなど8ルートが案内されているが、我々ぐるーぷの現状で全てのルートに対応することは不可能なので、奥駈道での接待・サポートに特化せざるを得ない。日本山岳会のオンライン会議に数回参加して、大峯奥駈道へは北海道支部3名、東京多摩支部2名、東海支部6名、岐阜支部12名、京都滋賀支部4名の5支部27名の皆さんが来山されることが判った。以後、これら5支部のリーダーから行動計画

をお聞きし、対応を詰めた。国道169号の通行止めが続いているため計画の変更を求めたり、参加人数の変更があったりでやり取りが大変だった。

5月15日に第一陣が、翌日、翌々日との3日間で何とか皆さんを登山口までお送りすることができた。集合日の5月18日は、メンバー8人が山在峠で飲料や果物、菓子などを用意して接待させて頂いた。岐阜支部の12名が午前9時半過ぎに到着された。疲れた様子も無く、果物や菓子に「美味しい」と大変喜んでいただいた。その後一時間遅れて多摩の野口支部長と山下君。すぐに東海支部の3名が到着した。皆さんこのような接待を受けた事は稀のようで、感激の様子だった。全員が通過した後、持ってきたホウキや熊手で落ち葉を除去しきれいにしておいた。午前11時頃に店じまい、本宮備崎へ移動し、熊野川を渡ってくるであろう皆さんを待ち受ける。午前11時30分過ぎに岐阜支部の12名が姿を現した。山在峠から2時間ほどで来ている。ペースも早くお元気だ。阪口君が先に渡渉してルートの目安を付けてくれたので、対岸から指示して誘導、無事全員が渡り切った。接待と併せて川を渡る関伽行、と初めての事だろう。キヤーキヤーと声をあげ、大変楽しそうだった。この後大斎原へ移動し皆さんの到着を待った。

待っている間に、明日開催される阿含宗の大護摩供のリハーサルを見学。大規模な行事だ。集合時間の午後3時を前に3人、5人と到着。集合時間には100人を超える全員が集まった。梶野君も到着し、九州からの加藤さん、関西の岩崎しのぶさんや岡田さん、今日との関本さんなど懐かしい方々と挨拶を交わす。やはり年配者が多いようで、大峯奥駈道を歩かれた方は全体の2割ほどだった。総

勢140名位の参加者だったらしく、我々としても、また地域にとっても有難い行事だった。この後皆さんはバスで勝浦のホテル浦島に向かった。参加者の皆様、山彦の皆、ありがとうございました。

(記；沖崎)



大斎原で